



ひとつだけ

イノウエミホコ
画・新井由木子

今、あたしはめっちゃ興奮している。

十二歳の人生の中で一番。だって、ずっと来たかった韓国・ソウルにいるから。

「ママが来てたライブハウスって、どこ？」

「そうよ。なかなかステキでしょ」

あたしは周りを見回した。でも、ライブハウスっていうよりカフェって感じ。だって……。

「ふふふ。ミチル今、ステージがないって思ってるでしょ」

あたしはガクガク頭を縦にふった。

「では問題です。一体、ステージはどこにあるでしょう!？」

「えーっ。教えてよっ」

その時、突然どこからギターの音が聞こえてきた。続けてドラムの音も。あたしは耳をすませて、音の方向へ歩

き出す。そしたら、部屋のすみに階段があった。

「この階段の下にステージがあったりして」

「あったり！ さあ行こう」

階段を降りながら、ドラムの音みたいに胸がドドッと高鳴る。五年生の時、ママの影響で韓国ロックにハマってから、ずっとソウルのライブハウスに来たかった。

でも中学受験があったから、この一年は韓国に来られなかったんだ。そして、晴れて志望校に合格したあたしは、パパからのごほうびで韓国に来た。つまり、今日はあたしのライブハウスデビューの日ってわけ。

「あーっ。ヘヨン、アンニョン！」

フロアについた途端、ママが誰かに向かって大きく手を振った。振り返ってきたのはお姉さん。大学生くらいかな。